

平成21年度後学期 学生による授業評価アンケート調査 (最終)

「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部経済学科		氏名	石橋太郎
講義コード	2279065010		講義名	経済情報論 I
開講曜日	木曜日	13・14 時限	専門科目	
授業回数	16 回	休講回数	0 回	補講回数 0 回 受講登録者数 73 人
<p>成績評価に際し注意した事項</p> <p>レポートに関しては、独創的な着眼点と論理の説得性があるものに高い評価を付けるよう心がけた。試験については、基礎的事項について十分理解しているかを問い、着実に理解をしているものが高い評価を得られるよう心がけた。</p>				
<p>報告内容</p> <p>長年、授業改善に心がけてきたことは、難易度の改善にあった。科目の性格上、本授業を受講するにあたり、数学、統計学の知識が本来は不可欠である。事前にこうした科目を受講し十分な成績を修得している学生のみを受講生として受け入れるのであれば、難易度の改善を検討課題にすることはない。しかし、これは現実的でないのが実情である。</p> <p>さて、本年度の授業評価を見る限り、難易度の改善はできたであろうか。スコアの平均点を見る限り、まだ十分ではないが、数年前に比べてスコアのばらつきがみられる。以前は、難しすぎるとの評価に偏りを見せていた。この点は、改善の成果があったものと考えている。さらなる改善については、その方向性を見出すことは、現在のところ、悩ましい問題と考えている。難易度を下げるとは、論理展開を非数学的にすることであり、多くの場合、直観的理解に訴えることになる。それはただちにあいまいさを内包する授業展開になってしまう危険と、受講生の論理展開力を育成する授業を放棄することでもあると考えられる。これが悩ましい問題である。レベルを下げない授業で、十分に理解させることが難易度の改善につながるのであろうが、そのためには授業内容の項目の削減をせざるを得ない。しかし、それは体系性を無視した授業展開をすることになり、新たな問題に直面する。</p> <p>授業アンケートは、難易度について改善を求めるものであるが、本授業を受講するに当たり条件(数学、統計学の十分な理解、あるいは単位修得)を付けていない現実では、担当教員としてかなり改善をしたと考えているが、さらなるご批判については耳を傾けたいと考えている。</p>				